

# ふれあい

## 2012年 秋季号 vol.48

2012年(平成24年)10月20日発行

日本医療機能評価機構認定病院 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 広報誌  
発行所/広報企画室 石川県野々市市郷町262-2  
TEL: 076-246-5600 FAX: 076-246-3914 http://www.nouge.net



### 病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

### 基本方針

1. 患者の皆様のご権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

### 患者の皆様のご権利

私達は患者の皆様のご権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様のご権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

## 超急性期血栓溶解療法の実施率はなぜ低いのか



病院長  
佐藤 秀次

我が国の脳卒中死亡患者は、癌、心臓病に次いで多く、3位(年間約13万人)ですが、寝たきりや介護の必要な原因として脳卒中は全体の3〜4割を占め、第1位です。

昨年、本院に入院した脳卒中患者数は554人ですが、脳梗塞は432人(78%)と最多でした。脳梗塞が脳卒中の70%強占めるのは全国データでも同様です。進行する高齢化社会で、脳梗塞は増加傾向を示していますので、有効な対策が喫緊の課題です。

脳梗塞の治療薬として脚光を浴びたのが血栓溶解剤、tPAです。米国では1995年に脳梗塞624人で行われたtPAの臨床試験の結果が発表されました。結果の概要は、tPA製剤であるアルテプラゼを脳梗塞発症後3時間以内に投与された患者の内、3カ月後にほぼ無症状になったのは31%、日常生活に支障がないレベルに回復したのは39%でした。これに対して、偽薬(見かけを似せて作った薬効のない偽の薬)が投与された患者では、それぞれ20%、26%

でした。死亡患者はtPA使用で17%、偽薬使用では21%でした。このようにtPAが脳梗塞の予後や症状改善に劇的な効果を示したことから、ヨーロッパでも普及しました。しかし、我が国では独自に試験を行い、米国と同様の結果が得られたことから、平成17年10月11日に使用許可がおりしました。

ところが、脳梗塞発症後3時間以内でtPA投与というしぼりは普及する上で大きな障壁となりました。認可されて約7年が経過しましたが、全国平均の使用率は2〜3%と低迷しています。その最大の理由は3つあります。一つ目は、患者が脳梗塞になったと気づくのが遅いこと、二つ目は患者をtPAを使える病院に移送するのに時間がかかり過ぎること、そして三つ目は病院にtPAを投与できる体制がとれていないことです。

本院はtPA治療の認可後、いち早く院内体制を整え、tPA治療に積極的に取り組んできました。石川県の救急車による搬送時間の短さは全国でもトップクラスであり、平均30分前後と、tPA治療を行うには絶好の条件に恵まれています。しかし、今年に入ってから現在まで、本院のtPAの使用率は54%に過ぎません。全国平均レベルと比べるとやや高いところにはありますが、まだまだ不十分な状況と言わざるを得ません。

## リハビリテーション機能(回復期)の認定を取得しました

回復期リハビリテーション機能の質の向上を目指して、病院機能評価Ver6に続き3月5日に「リハビリテーション機能(回復期) Ver2.0」の審査を受け、7月6日に認定証が発行されました。



このようにtPAの使用率が上がらない一番の原因は患者が脳梗塞を疑い病院に来る時間が遅すぎることです。家族や身近な人達が早く脳梗塞の症状に気づいてあげることが何よりも重要です。本院はこれから尚いっそう、脳梗塞の地域啓蒙活動に力を注いで参ります。脳卒中は地域ぐるみで取り組まなければ、寝たきりや介護の必要な患者を減らすことはできません。tPA治療が脳梗塞になった患者にだけ行われているのは、地域の脳卒中に対する意識や治療体制の善し悪しを計る指標になると受け止めていかねばならないでしょう。





## 『どっかのおやじや』と思って 子供たちも笑って入れる 医者でいたい。』

### 熊谷クリニック



今回ご紹介するのは、「熊谷クリニック」の熊谷公利先生です。取材にお伺いした際、ちょうど忙しい診療の合間をみて、往診に向かう姿をお見かけいたしました。

先生は、金沢医科大学医学部を卒業後、同大学内科に入局、その後救命救急科にて勤務されておられました。石川県立中央病院等複数の病院での勤務を経て、平成七年に野々市市(旧野々市町)矢作に開院し、平成十七年には野々市市役所前の中央通り沿いに移られています。

診療時間はお昼休みなしの午前9時から午後3時(月・土曜日)。午後3時以降は嘱託医として、第二万陽苑の入居者さんの健康管理を担っています。さらに患者さんの調子が悪い時には、颯爽と自宅に駆けつけてくれる往診医としても活躍されています。

「患者さんとは、常に対等な関係である」と思っているので、患者さんが恐縮しないような医療の提供を心掛けています。

『たかが医者、されど医者』ではないですが、医者は決して特殊な職業ではありません。しかし医者にはできないこともあります。患者さんが望むことに寄り添いながら、できるかぎりのことをしていきたい。さらに患者さんが何を求めて来ているのかを理解し、信頼関係を築くことも大切だと思っています。」

実際に年配の患者さんとは、「先生よりも私の方が元気や!」と診察中にお話しする方もいらっしゃるほどフランクな関係を築いています。

また、在宅医療について、「在宅には、訪問看護スタイルの拡充が重要です。在宅医療を進めるためには、療養病院と同等もしくはそれ以上に手厚い看護が必要だと感じています。患者さんが、病院ではなく自宅で家族に見守られながら、最期を迎えることを望まれるのであれば、その思いに応えるべくお手伝いをしていきたい。」と話されていました。

さらに地域連携については、「患者さんにとって、必要な治療を高い質で提供するために、日頃から地域の医療機関同士が密に連携し、「この病院を紹介すれば大丈夫」という関係作りが大事です。役割を分担することで、開業医は設備投資なしでも診療が行える。貴院のような専門病院が、最新の医療機器を用いて、正確な診断と今後の治療の道筋をたててくれることは、大変ありがたい。」ととても励みになるお言葉を頂戴いたしました。

「僕ら開業医は、日々生の声が聞けるから、日々勉強だと思っている」笑顔で話される先生に、開業医としての魅力の一つを教えてくださいました。人

#### DATA

### 熊谷クリニック

#### 住所

〒921-8825  
石川県野々市市三納2丁目154

#### TEL

076-246-6800



を診るのが好き、そして病気を診るのが好き、そのために勉強するのが好き。それはまさに先生の原動力となっていると感じました。

「決して形だけの連携ではなく、いい連携を築いていけたら、きっと将来的に不安のない社会になる…」先生の想いは、医療に対する情熱であふれていました。

#### TOPIC

### 平成24年度野々市市総合防災訓練に 当院スタッフが参加しました

8月26日に野々市市の拠点避難所となっている御園小学校グラウンドで、平成24年度野々市市総合防災訓練が実施されました。当日は猛暑の中、校区住民578人の方々が参加されました。当院からは災害看護対策チームとして6名の看護師が参加し、心肺蘇生法訓練とAED体験訓練を担当しました。



## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 が誕生しました

脳卒中は、我が国において寝たきりや要介護状態の原因になる疾患として第1位となっています。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は急性期・回復期・維持期（生活期）全てにおいて、専門性の高いケアを提供します。認定看護師には、自らの看護実践・スタッフの指導や相談

の役割があります。発症直後から、脳卒中による機能障害が最小限となるようリスク管理をしながらリハビリテーション看護を実践し、患者さんやご家族が望む生活に向けて多職種と協働しながらチーム医療を実践します。また、地域において脳卒中の啓発活動を行い、住民一人一人が健康で生き生きとした生活が送れるよう支援していきます。

私は急性期病棟で、脳卒中を発症したばかりの患者さんの病態や予後を、専門性を持って予測しながら、脳卒中による機能障害が最小限となるよう社会復帰に向けて早期リハビリテーションを実践しています。多職種と連携をとりながら、その人らしい生活に戻るよう支援していきたいと思っています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師  
櫻井 香織  
(急性期病棟主任)



脳血管疾患は喫煙・飲酒などの生活習慣が影響します。突然の脳卒中発症によって患者さんは症状にとまどい、生命の危機を乗り越えた後も様々な問題に直面します。また介護が必要となった原因疾患の第1位となっており、発症直後から「寝たきりにさせない看護・介護」が求められています。一人一人が発症予防を意識し、生き生きと楽しい人生を送れるよう支援していきたいと思っています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師  
坂上みどり  
(回復期リハビリテーション病棟臨床指導者)



## QC発表大会上位入賞サークルが 全国大会で発表しました

3月3日に行われた第8回QCサークル発表大会で上位に入賞したサークルが、各学会で発表しました。外来看護部の「脊椎手術予約管理を見直そう」と3病棟の「口腔ケアを見直そう」実施率を100%にしよう」は、第15回日本病院脳神経外科学会（於・函館）で発表しました。6病棟の「オムツ補充の時間を短縮しよう!!」は、第14回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in沖縄で発表しました。



## 2012年 納涼民謡コンサート

8月8日に、多目的ホールで納涼民謡大会を開催しました。この大会は、入院患者さん達に少しでも季節感を味わっていただくとうと企画したもので、野々市市の民謡サークル「ひばり会」と「晴苗会」のご協力で開催することができました。花笠音頭や麦屋節、こきりこ節など全部で14曲の歌と踊りに、見に来てくださった方も手拍子で楽しんで頂けたようでした。



## わく・ワーク看護体験

7月3日～5日の3日間、「平成24年度中学生」わく・ワーク体験学習」として野々市市と白山市の中学生6名が看護業務の体験に訪れました。看護部長から病院の説明を受けた後病棟で実際の業務の体験と、見学をしてもらいました。今回の経験が、将来医療の道に進むきっかけになってもらえるとうれしいですね。



## 患者さんコーナー



穴水町 菅原 淑子 様

梅雨とは言え、良天の続く此の頃です。此のたびは、ご縁有つて金沢脳神経外科病院にて、佐藤院長先生のご執刀により「頸椎脊柱管狭窄症」のMD法による手術を受けさせて頂きました。大変に重症で車いす寸前の状態で有つたことを、術後に家人から聞き、自分の無知を恥入ると共に、助けて戴きました先生方に、本当に、心の底から感謝を致しました。紹介して下さった知人（穴水）は、実に救いの神であつたと思います。六年以上前に、二カ所の病院で手術をすすめられましたが、麻酔の効かない体質と、覚めざわに吐くなど、手術そのものも恐ろしく、どうしてもその気になれずいました。病勢が、その間に進んだのでしよう。私の歩行を見て、此の病院を教えてくださいました。はじめて院長先生にお目にかかった時、この先生ならすべてをお委せて大丈夫と心の底から信頼というか安堵感というかその様な気が致しましたから不思議です。心配していた麻酔も自然に眠り目覚めて、夢かと思ひ嬉しうござりました。手術後も何の痛みも無く翌朝歩いてトイレから出て来たのを、来あわせた息子夫婦が、びつくり

して、目をまるくしていたのを思い出します。入院中は看護師さん誰方も親切で優しく、至れり尽くせりのお世話を戴きました。主治医の飯田先生が、休日の土・日曜日も回診にいらして下さいましたのには感激致しました。リハビリの向田先生には退院後の心がけまでお教え戴き、今はその言葉を思い出して日々はげんで居ります。何と良い病院にお世話戴いたのかと只々、感謝でいっぱいです。退院の前日、院長先生のお話の折に「危険な状態でしたね、しかし良かったですね」とおっしゃって戴いた時、ありがたく思わず涙がこみあげました。暖かくほほ笑まれた院長先生のお顔が慈父のように、後光がさしているように見えました。（私の方が年上です）手術前と後の映像を見せて戴きましたが、実にきれいに変わっていたのには本当に驚きました。何と素晴らしい、お医者様の手は神の手だと思いました。此の感謝の気持ちをどう表したら良いか、お礼をしたら良いか押さえきれない気持ちにいたる時に、「ふれあい」を拝見いたしました。ああ此所に、お礼を申し上げようと拙文を書かせて戴くことに致しました。世の、苦しんで居られる方々が、金沢脳神経病院でMD法の手術を、一人でも多く受けられて救われんことを切に願います。院長先生はじめ皆様のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。

## 旧病院の解体工事が終了しました

徳用町の旧病院建物の解体工事が終わりました。20数年苦楽を共にした建物が無くなりさびしい気持ちは隠せませんが新病院になってから早3年が経ちました。今後も、脳神経外科の拠点病院としてがんばっていきたいと思います。



## 平成24年度 救急フェアが開催されました

9月8日に白山のいち医師会、白山野々市広域消防本部の主催でイオン御経塚にて「平成24年度 救急フェア」が行われました。各体験コーナーには多くの方が訪れ、当院からは山本副院長が脳卒中予防相談コーナーを担当しました。



## クラブ活動紹介

③ 女子力アップ  
いきいきヨガ

私たちヨガサークルは平成23年11月に「仕事で溜まった疲れを姿勢、呼吸を整えて、心と体のバランスを保つこと」を目的に始まりました。現在は、年齢は20代〜50代まで幅広く職種も多彩な8名の仲間です。楽しんでいきます。先生は、美しいプロポーションで日本的なお顔立ちのS.D.YOGAチーフインストラクターの藤田京子先生です。毎週金曜日の18時〜19時の1時間のレッスンですが、多目的ホールのダウンライトと心落

ち着くバックミュージックも相まって、一週間の疲れが身体から抜けて気分爽快・体の中の毒素が排泄され（デトックス効果）、女性ホルモンが蘇りそうな気がします。このサークルを通じて色々な職種の方とコミュニケーションが取れるので日常の仕事においても大変良い関係を持てるのが最大のメリットです。

